藤井洋治

ふじい・ようじ

陸軍中将、満州第19旅団長

経　歴		
生:明治20年(1887年)10月5日、広島県深安郡深津村生まれ		
没:昭和20年(1945年)8月6日、広島の官舎で被爆死、享年58歳		
明治38年(1905年)	17歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業
明治38年(1905年)7月	17歳	士官候補生
明治40年(1907年)5月31日	19歳	陸軍士官学校卒業(第19期)
明治40年(1907年)12月26日	20歳	陸軍歩兵少尉、歩兵第11連隊附
明治43年(1910年)11月	23歳	陸軍歩兵少尉
大正2年(1913年)12月13日	26歳	陸軍大学校入学
大正5年(1916年)11月25日	29歳	陸軍大学校卒業(第28期)
大正6年(1917年)8月	29歳	陸軍歩兵大尉、陸軍参謀本部附
大正7年(1918年)2月	30歳	参謀本部部員
大正9年(1920年)3月	32歳	アメリカ出張
大正10年(1921年)4月20日～ 大正11年(1922年)12月12日	33～ 35歳	アメリカ大使館附武官補佐官
大正11年(1922年)8月	34歳	陸軍歩兵少佐
大正11年(1922年)12月	35歳	陸軍大学校兵学教官兼参謀本部部員
大正12年(1923年)6月	35歳	ルソン島へ出張
大正15年(1926年)8月	38歳	陸軍歩兵中佐
昭和2年(1927年)7月	39歳	歩兵第11連隊附
昭和3年(1928年)8月	40歳	天津駐屯歩兵隊長
昭和3年(1928年)12月ごろ	41歳	天津駐屯歩兵隊歩兵中佐
昭和4年(1929年)ごろ	41歳	歩兵中佐、在広島
昭和4年(1929年)10月	42歳	歩兵第12連隊附、在丸亀

―	―	歩兵中佐、東京参謀本部
昭和5年(1930年)8月1日～ 昭和7年(1932年)2月16日	42～ 44歳	陸軍歩兵大佐、第1師団司令部附、早稲田大学配属
昭和7年(1932年)2月20日	44歳	歩兵第37連隊長
昭和8年(1933年)8月1日	45歳	第16師団司令部附、京都帝国大学配属
昭和9年(1934年)9月17日	46歳	留守第16師団司令部附、京都帝国大学配属
昭和10年(1935年)8月1日	47歳	陸軍少将、歩兵第19旅団長(満州北安鎮)
昭和12年(1937年)3月1日	49歳	近衛師団司令部附
昭和13年(1938年)7月15日～ 昭和14年(1939年)3月9日	50～ 51歳	陸軍中将、留守第1師団長
昭和14年(1939年)10月2日	51歳	第38師団長(南支那方面軍)
昭和15年(1940年)4月29日	52歳	勲一等旭日大綬章
昭和16年(1941年)6月20日	53歳	中部軍司令官
昭和17年(1942年)8月17日	54歳	待命
昭和17年(1942年)8月31日	54歳	予備役
昭和20年81945年)4月1日	57歳	召集により広島師団管区司令官
昭和20年(1945年)6月15日	57歳	第59軍司令官(第2総軍・第15方面軍)兼中国軍管区司令官
昭和20年(1945年)8月6日	57歳	広島の官舎(西練兵場西南端、旧広島市民球場入り口付近)で被爆死

生い立ちと学業、業績

昭和14年(1939年)、新設の第38師団長(南支那方面軍)として出動、広東を拠点に治安維持と討伐戦を展開した。
昭和16年(1941年)には内地に戻って中部軍司令官となったが、間もなく予備役に編入された。
昭和20年(1945年)には再度応召して、第59軍司令官(第2総軍・第15方面軍)兼中国軍管区司令官として広島にあったが、昭和20年(1945年)8月6日の原爆で爆死。

資料提供:岡田智晶氏(昭和25年卒)、作田正義氏(昭和30年卒)

出典1:『会員名簿(第1号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和4年12月30日
出典2:『会員名簿(第2号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和6年1月
出典3:『会員名簿(第3号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和7年3月5日
出典4:『会員名簿(第5号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和8年12月10日
出典5:『会員名簿(第6号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和9年12月15日
出典6:『会員名簿(第10号)』、福山誠之館中学同窓会、昭和13年12月18日
出典7:『慟哭の悲劇はなぜおこったのか』、8～9頁、建物疎開動員学徒の原爆被災を記録する会、2004年10月
出典8:HP「軍人データベース サクラタロウDB(藤井洋治)」
出典9:『福山学生会雑誌(第62号)』、146頁、福山学生会事務所編刊、大正15年7月12日
出典10:『福山学生会雑誌(第67号)』、99頁、福山学生会事務所編刊、昭和3年12月30日
出典11:『福山学生会雑誌(第70号)』、77頁、福山学生会事務所編刊、昭和5年7月30日